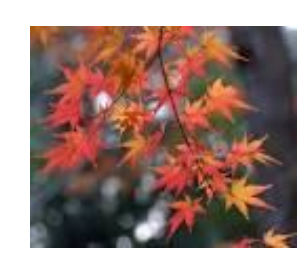


曾木公園 樹木マップ

代表的なもみじ



イロハモミジ
カエデ科カエデ属の落葉高木である。イロハカエデ(いろは楓)などとも呼ばれる。日本では最もよく見られるカエデ属の種で、紅葉の代表種。本種より作られた園芸種も多い。



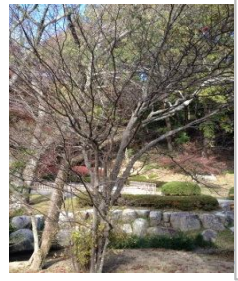
ヤマモミジ
カエデ科の落葉高木。高さ10メートル。葉は対生し、イロハカエデに似ているが、葉が大きく長さ6~10センチメートル。中ほどまで7~9裂し、裂片は狭卵形から広披針(こうひしん)形で先が尾状にとがり、縁(へり)に重鋸歯(じゅうきょし)または切れ込みがある。



オオモミジ
オオモミジは北海道中部以南から九州にまで分布する落葉小高木。山地の森林に生育し、ブナ帯びから常緑広葉樹林帯の上部の落葉広葉樹林に生育する。庭園木としてもよく植栽される。葉は端正で美しく、通常7つ(5~9)に掌状に分かれる。



ミズキ
ミズキ科の落葉高木。5-7月に白い花が咲く。春に幹を伐ると樹液が流れ出すのでミズキの名がある。



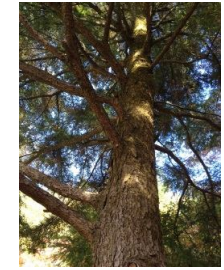
エゴノキ
エゴノキ科の落葉小高木である。北海道~九州・沖縄まで、日本全国の雑木林によく見られる。和名は、果実を口に入れると喉や舌を刺激してえぐい(えごい)ことに由来する。



サザンカ
秋の終わりから、冬にかけての寒い時期に、花を咲かせる。野生の個体の花の色は部分的に淡い桃色を交えた白であるのに対し、植栽される園芸品種の花の色は赤や、白や、ピンクなど様々である。



ツガ
マツ科ツガ属に分類される常緑性の針葉樹。直立する大木になり、高さ30m、胸高直径1mに達する。樹皮は灰色がかった赤茶色で亀甲状にはがれる。葉は扁平な針状で、表面は深緑でつやがあり、主軸に沿って窪みがある。先端が少しぼんでおり、葉先が二つに分かれたようになっている。その点でモミにも似ているが、モミは二つの先端が鋭く尖っているのに対して、ツガは丸まっている。



大王松
マツ科マツ属の常緑針葉高木。名前の通り大きなマツで、日本では通常10mくらいにしかならないが、原産地では40mもの大木となる。マツ科の植物では短枝という特殊な短い枝に何本かの葉が束生するが、日本で一般的なマツ科植物ではアカマツやクロマツのように2本あるいはゴヨウナツ類では5本の葉であるのに対し、ダイオウマツでは30~40cmとかなり長大な葉が3本生じ、しななって垂れ下がる。



台湾ヤマモミジ
原産地: 太平洋諸島 科名: ウコギ科 属名: ポリシヤス属 (台湾モミジ属) ... とっても風情があり飾るとオシャレな雰囲気満喫できる珍しい観葉植物が台湾モミジですが、お手入れがやや上級者向きです。



ノムラモミジ
春に成長する新しい葉は深い赤色で、他の樹木が緑の新葉をつける中で、ひときわ目に鮮やかです。夏になると葉の色は緑色に変わりますが、秋には再び紅葉して色づきます。春から秋にかけての色彩の変化が楽しめる樹木です。

